

勇姿を見逃すな！

1981年にスタートし、今年で38回目を迎える「大分国際車いすマラソン」。本大会には、熱戦を繰り広げる選手と大会を陰ながら支えるボランティアの勇姿があります。今回は、車いすマラソンの選手である藤原修さんと通訳ボランティアとして参加する後藤恵子さんにお話を伺いました。

大会が続く限り走り続けたい



藤原 修さん

事故で入院した時の主治医である中村裕博士の勧めで、太陽の家で働き始める。休みの日に練習をし、車いすマラソンに参加し続けている。

Athlete | アスリート

1年間事故で入院した後、働き始めた太陽の家で、周りの先輩や同僚が車いすマラソンに挑戦している姿を見ながら、周囲の勧めもあり初めて参加したのが第4回大会。3時間のリミットギリギリでしたが完走することができました。家族や地元の知り合いが沿道から応援してくれ

て、「車いすになってもこういう体験ができる」ということがうれしかった。それ以来ですからもう30回以上参加していますね。若い頃は1時間40分くらいで走っていましたが、最近は2時間を切ったり切らなかつたりです。今までの大会で忘れられないの

は、第10回の記念大会で選手宣誓をしたこと。前日は緊張で眠れませんでした。大分以外の大会に遠征することもありますが、やはり大分が最高です。コースも走っていて楽しいですし、何より沿道からの応援がすごいです。中心部から最も離れた久原の辺りでも多くの人が応援してくれます。レース後半は体力的に厳しい時間なので本当に励みになります。コース全体を通して応援が途切れないというのは本当に素晴らしい。世界に誇れる大会だと思っています。これからもずっと続いてほしいですし、大会が続く限りは私も参加したいと思っています。



別大国道で練習に励む藤原さん(右)。海沿いの道を何往復も走ります。

Interview

Volunteer | ボランティア



大分国際車いすマラソン通訳ボランティア「Can-do」代表

後藤恵子さん

第1回大会からボランティアとして参加。約60人のメンバーで10か国語に対応できるボランティアとして活動している。

多くの感動を与えてくれるランナーたちを陰ながらサポートしていきたい

来県する外国人選手の通訳のほか飛行機や宿泊先の手配から、選手たちの身の回りのサポートなどをしていきます。第1回大会は何もかもが初めてで本当に大変でした。当時のボランティアは私を含め3人で、空港に到着した選手を市内まで送り届けました。

今ではレーサーという競技用の車いすを使用していますが、当時はまだ生活用の四輪の車いすで参加する人が多数いて、韓国から来た選手は病院の車いすにあぐらをかいて座り、手だけで走りゴールしました。その瞬間、すごい歓声が起こったのを思い出します。

これまでの大会の中で一番心に残っているのは、第8回大会です。それまで4大会連続優勝していたアンドレ・ヴィジエ選手(カナダ)の連覇を抑え、無名だったポール・クラーク選手(カナダ)が優勝を果たしました。大会前日、彼は河川敷での練習中に事故に遭い、大破した車いすを自分で修理していたのです。その現場を見ていた私は「最後まで車いすが壊れず、無事に走りきってほしい」とだけ願っていました。最後、まさかこんなドラマが待ち受けているとは思ってもみませんでした。皆さんの応援が選手たちの力になっていて感じます。大会ごとの感動もたくさん見えました。私たちは



開会式前に選手たちと談笑する後藤さん。コミュニケーションを大切にしています。

ボランティア活動を通じ、彼らにたくさんのお話を教えてもらいました。今年も選手を第一に考え、さりげなくサポートできる存在でありたいです。

もっと知ろう！

Racer | レーサー 進化した車いすに注目!!



(写真提供:大分県)



(写真提供:大分県)

1981年の第1回大会当初は、四輪のものしかなく、通常の生活用車いすで出場した選手も多かった。

現在では、三輪タイプが主流となり、材質もアルミ、チタンなどで軽量化され、6kg台のものもある。また、ホイールベース(前輪と後輪の間の距離)も長くなってきている。前輪は18~20インチ、後輪は26~27インチが多く使用されており、タイヤは自転車競技用の細いものが使用されている。

1983年の第3回大会のマラソン優勝記録は2時間7分54秒。1999年の第19回大会の大会最高記録1時間20分14秒と比べると47分40秒縮まっている。この記録の短縮は、車いすの改良によることも大きいと考えられる。

Data | データ 世界記録は男女とも大分で生まれている!!

現在の世界記録

IPC公認世界記録

男子:1時間20分14秒

ハインツ・フライ選手(スイス)/1999年10月31日

第19回大分国際車いすマラソン

女子:1時間38分07秒

マヌエラ・シャー選手(スイス)

土田和歌子選手(東京都)/2013年10月27日

第33回大分国際車いすマラソン